
PDS 7.2 の Inactive Project Retrieval 機能の不具合について

2003-07-15

1 不具合内容

Version 7.1 までの PDS では、より古いバージョンの PDS ソフトウェアによって作成されたアーカイブデータを基に Inactive Project Retrieval を実行すると、リトリーブ処理終了後、そのプロジェクトを初めて使用する際にプロジェクトデータのアップグレード処理が行われていました。

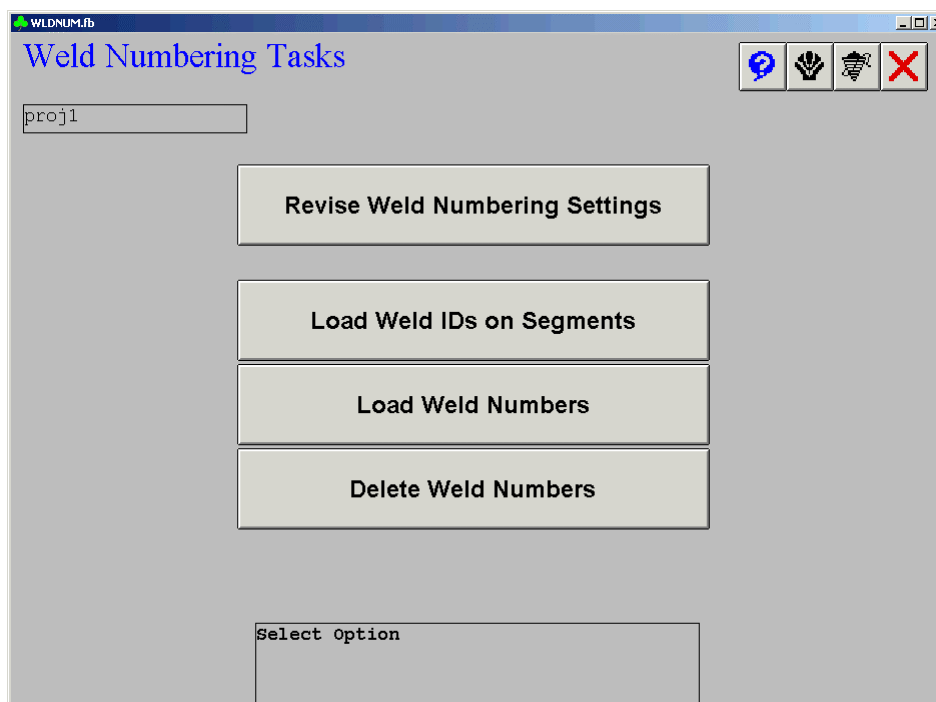
PDS 7.2 では、より古いバージョンの PDS ソフトウェアによって作成されたアーカイブデータを基に Inactive Project Retrieval を実行すると、リトリーブ処理と同時にプロジェクトデータのアップグレード処理が行われる仕様に変更されています。

ただし、PDS 6.4 で作成されたアーカイブデータを基に PDS 7.2 により Inactive Project Retrieval を実行すると、プロジェクトスキーマ(pd_xxxx)部分に対するアップグレード処理は行われますが、各ディシプリンのモデルデータ(データベースおよびデザインファイル)に対するアップグレード処理が行われず、リトリーブ処理終了後のモデルを正常に使用することができなくなります。

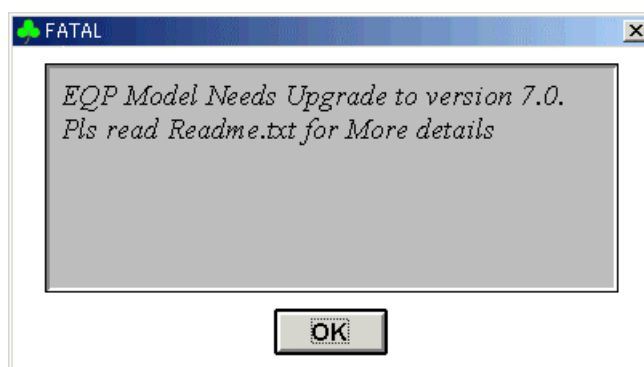
この不具合は 2003-07-15 の時点での最新版ソフトウェア(PD_PROJEC 07.02.00.16, PD_SHELL 07.02.00.17)において確認されています。Intergraph 社はこの不具合が存在することを認識しており、不具合に対応した Fix 版のソフトウェアが近日中に発行されるものと思われる。この資料では、不具合の詳細および Fix 版が発行されるまでの対応方法を説明します。

1-1 不具合詳細

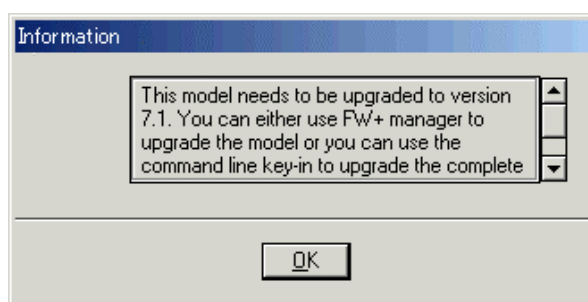
Piping モデルでは、各モデルのデータベース(dd スキーマ)内の pdtable_12_xx テーブルに対して weld_id 属性が追加されません。このため、Piping Design Data Manager Weld Numbering Load Weld IDs on Segments コマンド、および Weld ID, Weld Number に関連する機能が動作しません。



Equipment モデルでは、リトリブ後の各モデルを開こうとすると以下のようなメッセージが表示されます。**OK** ボタンを選択すると、PD_EQP が異常終了します。



Structural モデル(FrameWorks Plus モデル)では、リトリブ後の各モデルを開こうとすると以下のようなメッセージが表示されます。**OK** ボタンを選択すると、MicroStation 上から FrameWorks Plus の機能がアンロードされ、Structural モデルとして使用することができません。



なお、他のディシプリン(PE-HVAC, EE Raceway 等)のモデルでは、PDS 本体によるアップグレードを行う必要がなく、この不具合には関連しません。

2 対応方法

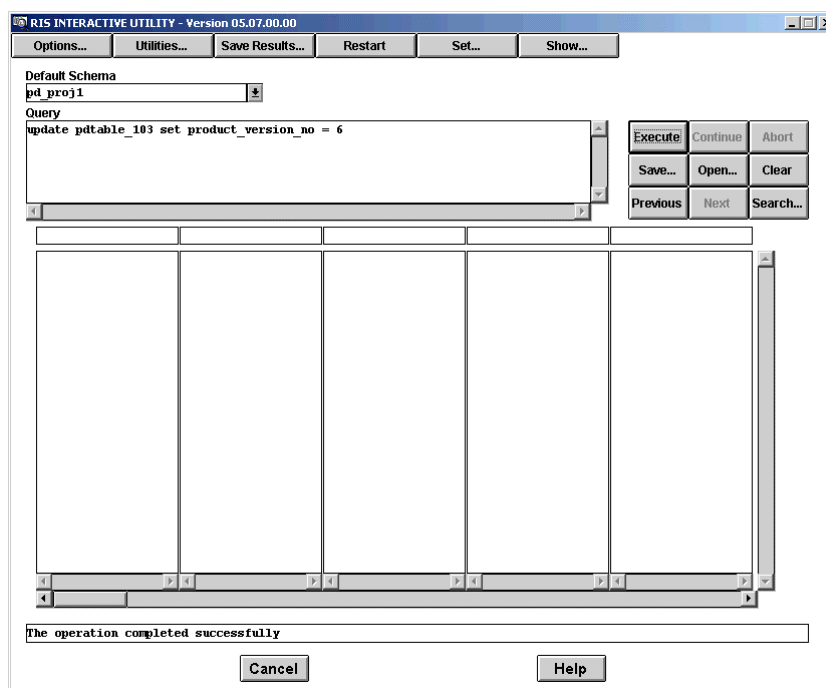
PDS プロジェクトデータのバージョンは、プロジェクトスキーマ(pd_xxxx)および proj_file ファイルに記録されています。PDS 7.2 ソフトウェアにより Inactive Project Retrieval を実行した場合、リトリブ後のプロジェクトデータのバージョンは 7.2 として記録されます。proj_file ファイル内の情報を古いバージョンの形式に書き換えると、次回 PDS 7.2 によりそのプロジェクトを使用する際、モデル部分を含めたプロジェクトアップグレード処理が行われるようになります。

なお、この対応方法は武藤工業株式会社での調査を基にしており、どのような場合においても完全に適用可能であることを保証するものではありません。

2-1 product version no の変更

プロジェクトスキーマ(pd_xxxx)内に記録されている PDS のバージョンを変更します。PDS 7.2 による Inactive Project Retrieval 処理の終了後、**Start** Programs RIS05.07 RIS Interactive を起動します。Default Schema として、リトリブしたプロジェクトのプロジェクトコントロールスキーマ(pd_xxxx)を選択します。Query に対して以下の SQL 文を入力し、右側の Execute ボタンを選択します。

```
update pdtable_103 set product_version_no = 6;
```



次の SQL 文を使用して、上記 SQL 文の実行結果を確認します。

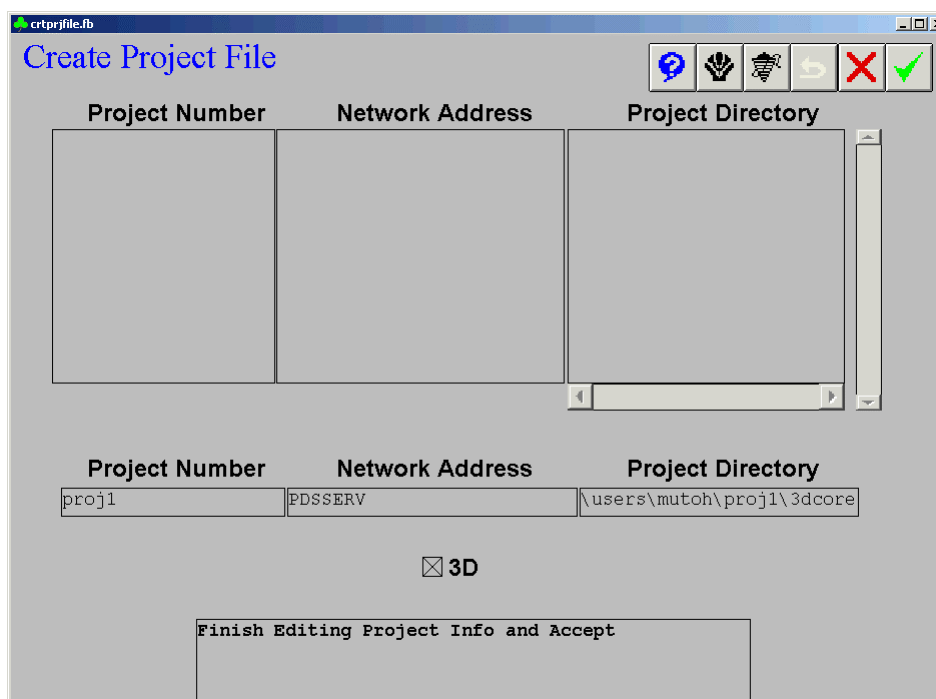
```
select * from pdtable_103;
```

なお、product_version_no 属性はその PDS プロジェクトデータのバージョンを示しています。PDS ソフトウェアの各バージョンと product_version_no 属性の値は、以下のような対応を持っています。

PDS ソフトウェア	product_version_no
5.4	4
6.0/6.1	5
6.3/6.4	6
7.0/7.1	7
7.2	8

2-2 一時的な proj file の作成

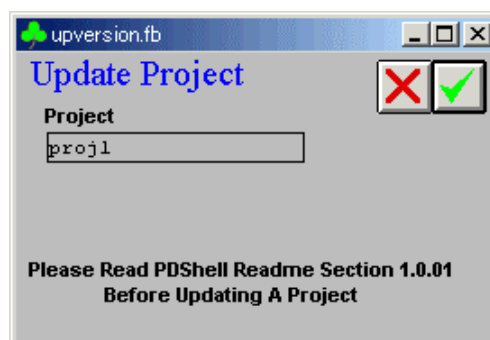
PDS Configure によって指定されたパスに存在する proj_file ファイルに対して、名前の変更または他のパスへの移動を行い、一時的に削除を行った状態とします。その後、PDS を起動し、**System Manager** ボタンを選択します。



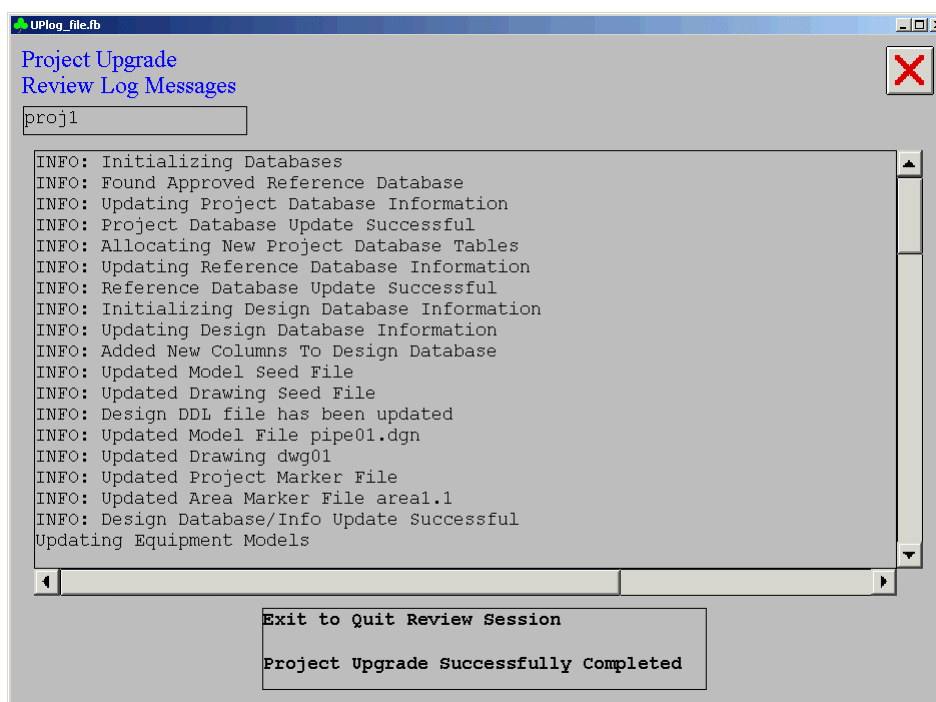
Project Number に対してリトリブを行ったプロジェクトのプロジェクト番号を入力します。Network Address および Project Directory に対して、そのプロジェクトのプロジェクトディレクトリのサーバ名、サーバ上でのパス名を入力します。その後、 ボタンを 2 回選択し、proj_file ファイルを作成/保存します。

2-3 PD SHELL によるアップグレードの実行

上記の状態から ボタンを数回選択して PDS を終了した後、再度 PDS を起動します。上記で指定したプロジェクト番号を選択すると、以下のようなフォームが表示されます。 ボタンを選択すると、モデル部分も含めたプロジェクトデータのアップグレード処理が開始されます。



アップグレード処理が終了すると、以下のようにログファイルの内容が表示されます。



正常にアップグレード処理が行われたかどうか、内容の確認を行います。

2-4 proj file の復元

PDS を終了した後、一時的に作成した proj_file ファイルを削除します。名前の変更または他のパスへの移動を行っていた proj_file ファイルを、元の状態に戻します。

2-5 RDB 修正等の作業

通常のプロジェクトアップグレード作業と同様に、必要に応じて RDB の修正等を行います。

2-6 EE Raceway プロジェクトのアップグレード

EE Raceway を使用している場合は、通常のプロジェクトアップグレード作業と同様に、EE Configure の設定が正しく行われている状態で

C:\¥WIN32APP¥INGR¥EENUC¥bin¥ee72upg.exe を実行します。